

心身を清めて神に近づくための準備を整える 参拝と手水の作法

洗い場と勘違いしている人がいるが、この建物は身を清めて神前に出るための準備をする、大切な場所である。

手水舎での作法は、いわば禊の儀式を簡略化したものである。古来、神事に参加するにさきだち、必ず禊によって心身を清めなければならなかった。

今では手水舎となっているが、古くは「御手洗川」や「祓川」と呼ばれる川で心身を清めていたのである。

神は穢れを嫌い、清浄をことのほか好む。そのため神と出会うためには、禊によって心身の穢れを取り去ることが不可欠になるのである。そのうちのこの禊を簡略化したものとして、手水舎での作法が生まれた(115)。

神社の正しい参拝マナーを知ろう

神社は神霊が鎮まる聖なる場所であり、鳥居をくぐれば、そこは神が占有する領域である。それゆえ、神社参拝するためにはマナーが必要だ。

まず鳥居をくぐるときは、軽く一礼する。参道の中央は正中といひ、そこは神様のための道であるので避ける(117)。手水舎を素通りするのは不作法である。社殿の境内では、帽子をかぶったり、肌が露出した服を着たり、喫煙・

飲食をするのは慎しむべきである。

参拝時間は、早朝か午前中が望ましい。神社参拝によって罪や穢れを祓い、神から新たな力をいただくことができる。

また、初詣や初宮参り、七五三参り、成人式、厄祓いなどの特別な祈願の場合は、本殿に昇って正式参拝をする。社務所で申し込みをして、神職の指示に従う。

心身を洗い清める 手水舎の作法

神社を参拝するには、まず手水舎へ進む。手水舎を水飲み場か手

手水の作法



1 手水舎の前で一礼する。



2 右手でひしゃくを取り、最初に左手からすすぐ。



3 左手にひしゃくを持ちかえて、右手をすすぐ。



4 左手をコの字状に丸めて、水を受けて、口をすすぐ。



5 ひしゃくを立てて、残った水を流してひしゃくの柄を清める。



6 ひしゃくをもとの場所に伏せて戻す。

*正式参拝：拜殿もしくは神楽殿に昇殿して、お祓いと祝詞奏上、玉串奉奠を受ける。

*御手洗川：京都市の下鴨神社の境内には、御手洗池と御手洗川がある。七月の土用の丑の日には、無病息災を祈って御手洗祭が行われる。